

**奥能登公立 4 病院機能強化検討会
部門別分科会（救急医療、医療 D X） 議事要旨**

- 1 日 時 令和 8 年 7 月 10 日（金） 15 時 00 分～16 時 40 分（非公開）
- 2 場 所 石川県庁（1105 会議室）＋Teams（ハイブリッド開催）
- 3 出席者 別紙 1のとおり
- 4 議事要旨

(1) 救急医療

奥能登における救急医療の現状を踏まえ、事務局から別紙 2（救急医療対策の方向性（①現状の 4 病院体制、②新病院開院後））を提示・説明し、意見交換を行った。

（主な意見）

＜①現状＞

- ・医療従事者の離職が進む中、現場の負担が大きくなっているため、今後、救急機能を集約化していく必要がある。
- ・新病院にいきなり集約するのではなく、4 病院→2 病院→新病院といった形で段階的に集約を進めるべき（輪島・穴水＋珠洲・宇出津など）。
- ・その際、部分的な輪番制の導入（休日のみなど）から始めてはどうか。
- ・輪番については、すべて集約するタイトなものとするか、例えば、ウォークインは従来どおりとするといった緩やかなものとするか、検討が必要。
- ・その前提として、医療資源の共有や医療機能の分化について、病院同士で議論していてもよいのではないか。

＜②新病院開院後＞

- ・搬送時間が長くなることに対してドクターカーの導入は有効だが、具体の出動基準や運用方法を明確にしていく必要がある。
- ・搬送時の処置を担う救急隊の役割が大きくなるため、その養成（スキルアップ）は重要。

＜①②共通＞

- ・輪番制の導入や新病院への統合について、住民（患者）にとってのメリットを示すなど、住民の理解を得る必要がある。
- ・救急医療の統合については、開業医もその影響に不安を感じており、医師会への丁寧な説明が必要。
- ・救急車に乗る患者自体を減らすため、予防医療にも力を入れるべき。

(2) 医療 D X

能登で進められている医療 D X の取組について、事務局から以下の点を説明し、意見交換を行った。

- ①厚労省が提供する「電子カルテ情報共有サービス」を活用した医療機関間での医療情報の共有
- ②「のとピット」を活用した、住民への健診データなどの医療情報の提供や健康意識の向上
- ③医療D Xを積極的に取り入れている病院における、A I サービスを活用した診療業務効率化
- ④オンライン診療・相談の実施

(主な意見)

- ・医療D Xについては、「医療D X」（医療情報の共有）と「病院D X」（病院業務の効率化）に区別して考えていく必要がある。
- ・文化の異なる4病院が新病院へ統合することを踏まえると、システム導入においては、病院間の意思疎通により、各病院が同じものとしていくといった考え方が重要。
- ・まずは、4病院での電子カルテの情報共有を進めていきたい。
- ・「のとピット」は、予防（生活習慣病対策）の観点から、活用することができるのではないか。
- ・救急患者の医療情報の迅速な把握、救急隊への指示、オンライン診療の拡充など、患者に還元できるよう取り組んでいくことが必要。
- ・オンライン診療のシステムは、「D to P with Student」といった形で、医学生教育にも活用していったらどうか。

以上